

環境保護と低炭素社会について の *an economist* の見方

中央環境審議会地球環境部会懇談会

2007年10月3日

大和総研チーフエコノミスト 原田泰

この資料は、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。内容に関する一切の権利は大和総研にあります。事前の了承なく複製または転送等を行わないようお願いします。

©原田泰/大和総研

1

環境の専門家ではない 環境経済学の専門家でもない 経済学の観点から別の見方ができること を *an economist* として述べる

1. 人口減少
2. 農業保護
3. 里山景観、人工美林の保護
4. 人口密度
5. 住宅ストック
6. その他の疑問

効率的なものは環境にも良い

©原田泰/大和総研

2

1. 人口減少

- ❖ 環境の観点から間違いなく良いこと
- ❖ 世界的な環境制約が一人当たりになっているのではないか（人間が生きるための“環境汚染権”を考えると、一人当たりで考えるしかないのではないか）
- ❖ 一人当たり環境負荷が問題なるなら人口減少はさらに間違いなく良いこと

©原田泰/大和総研

3

2. 農業保護とばら撒き政策

- ❖ 公共投資のばら撒き
- ❖ 農家への直接ばら撒きと関税引き下げ

炭素排出量は農家への所得補償の方が低い

- ❖ 機械式大規模農業の推進とコスト削減策
⇒人為的に機械とコンクリートを用いる
- ❖ 所得保障支払い（平均的成本と販売価格の差額を支払われる）⇒効率改善へのインセンティブはある

©原田泰/大和総研

4

ばら撒き国家と購入国家

✦ 北欧、大陸ヨーロッパ GDPの50%が税

✦ アメリカ、日本 GDPの30-40%が税

なぜヨーロッパは豊かなのか

購入者と消費者が別々であることの無駄

✦ ヨーロッパ 個人への再分配

✦ 日本 地方自治体、建設業などへの再分配

ヨーロッパは課税、再分配のロスが小さい

(ウィリアム・バーンスタイン『豊かさの誕生』第11章、日経)

3. 里山景観、人工美林の保護

✦ 人手を使って守るべきではない⇒人手を節約して守ろうとすればスーパー林道のような自然破壊をもたらす

✦ 縄文の森、照葉樹林の森に返せばよい⇒環境的にはより価値が高いはず

✦ 日本庭園の罫

殿様や豪商から庶民がお金を返してもらうもの
ベルサイユ庭園⇒イングリッシュガーデンの革新